

京都市交通局

京都市バスの混雑対策について

～ 「前乗り後降り」方式の導入 ～

1 検討に至った経過と目的

京都市バスのお客様数は、京都を訪れる国内外からの旅行者の急増を背景に年々増加し、現在1日当たり36万8千人(平成29年度)のお客様に御利用いただいています。

これまで利便性向上を目指し、増車を行いながら、路線・ダイヤの拡充に取り組んできましたが、主な観光地を結ぶ系統に観光のお客様の御利用が集中することに加え、大きな手荷物をお持ちのお客様の増加により、一部の系統では混雑度が高まる傾向にあり、通勤・通学をはじめ、市民の皆様の日々の御利用に影響が生じるなど、バス車内の快適性が低下しつつある状況が見受けられます。

従来の「後乗り前降り」方式では、お客様は車両中ほどの扉を乗車口とし、車両前方から運賃をお支払いのうえ降車いただいておりますが、車内前方は前タイヤがあるため床スペースが狭いこともあり、多くのお客様に御利用いただいた際には、車両前方にお客様が滞留するなど、車内混雑が一層発生しがちな状況となっています。

こうした車内の状況を緩和するため、近年、均一運賃区間が拡大したことも踏まえ、前扉を乗車口とし、先に運賃をお支払いいただき、車両中ほどの広い扉からスムーズに降車していただく「前乗り後降り」方式への変更に向けた検討に着手しました。

2 実証実験の実施

平成29年10月と12月の計5日間に、1便当たりの利用者数が最も多い100号系統(観光系統：京都駅～五条坂(清水寺)～祇園～銀閣寺)で「前乗り後降り」方式の実証実験を行い、乗降時間や車内の御利用状況、お客様へのアンケート調査を実施しました。その結果、従来方式と比べ、1人当たりの平均乗降時間は0.2秒減り、停留所での平均停車時間は11.5秒短縮しました。また、降車により空いた後扉付近のスペースに前方のお

客様が順次移動され、スムーズに乗降いただきました。さらに、お客様アンケートでは、「スムーズ又はややスムーズに乗車できた」と回答された方が約7割、「スムーズ又はややスムーズに降車できた」が約8割と、好意的な評価をいただきました。



【実証実験時の様子】

3 「前乗り後降り」方式の本格導入

実証実験の結果を踏まえ、新ダイヤの実施に併せ、平成31年3月16日(土)に、「前乗り後降り」方式を100号系統に導入します。また、京都駅から五条坂(清水寺)を直通で結ぶ、観光シーズンだけの臨時便である東山シャトルにも導入することとします。

本格導入に当たって、車外へ放送を流すスピーカーを前扉付近に増設するなどの車両の改修を行うとともに、従来方式と「前乗り後降り」方式のいずれにおいても、お客様に安全に乗降いただけるよう、点字ブロックの移設や歩車道境界縁石の切下げなどの改修を行いました。また、従来方式と「前乗り後降り」方式が混在することから、車両や停留所に掲出する案内表示や主要停留所に配置する案内員などにより、お客様への周知を図ることとしております。

今後は、順次、100番台の観光系統に拡大を図り、混雑緩和を目指してまいります。

問い合わせ：京都市交通局自動車部運輸課
電話：075-863-5132